

第46回全日本大学男子選手権大会

平成23年8月27日(土)～29日(月)
山口県宇部市/宇部市東部体育広場



中京学院大(岐阜) 歓喜の初優勝!

日ソ協記録委員 下村 征二

標記大会は、第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」が開催された「緑と花と彫刻のまち」山口県宇部市において、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた精鋭32チームが参加し、「市制施行90周年記念大会」と銘打って開催された。

会場となった宇部市東部体育広場は、今年10月に開催される山口国体では少年男子・女子の試合会場となることが決まっており、そのための整備が進められ、この大学男子選手権では平成15年に開催された第38回大会でも会場として使用されたことがあり、大会前日の監督会議では、前回大会での思い出

やエピソードなど、今回の抱負を交えた紹介が数多く聞かれた。

大会は厳しい残暑の中、大学日本一を争う「熱い戦い」が繰り広げられ、昨年の覇者であり、連覇を狙う環太平洋大(岡山)が2回戦で敗れる波乱もあつたことから、どのチームが優勝してもおかしくない大混戦となった。それを象徴するかのようには、今回は打撃戦が多く、中には7点差を逆転した試合や、終盤までもつれた試合も数多く見られ、まさに「最後の最後まで目が離せない」試合が多い大会であつたといえる。このような打高投低の中、中京大(愛知)の望月孝典、中京学院大

(岐阜)の片岡涼投手の防御率0点台は特筆すべき記録であつた。
また、1回戦で敗れはしたが、3月の東日本大震災を乗り越え、今大会に出場した仙台大(宮城)の「最後まで諦めないプレイ」は非常に印象に残つた。

ベスト4には、準々決勝で日本体育大(東京)に競り勝ち、勢いに乗る中京学院大(岐阜)、初戦で国士館大(東京)を延長タイブレーカーの末に破り、昨年に引き続き勝ち上がってきた中京大(愛知)、第41回大会以来5年ぶりのベスト4進出を果たした神戸学院大(兵庫)、今大会打撃好調で2回戦の関西大(大阪)戦では劇的な逆転サヨナラ勝ちを収めるなど、7年ぶりのベスト4へ勝ち上がった立命館大(京都)の4チームが勝ち残り、決勝では中京学院大が立命館大を相手に2本の本塁打を含む11安打を浴びせ、快勝。創部10年目という節目の年を見事初優勝で飾つた。

〈準決勝〉

中京学院大	22311
中京大	00010
	1 9

※大会規定により5回得点差コールド

(学) ○片岡一三浦
(中) ●深津・望月一由久保・和田
▽困川原、芝(学)
〔審〕P原1財満2前野3藤井(中)
〔記〕藤井(中)

先攻の中京学院は初回、中京・深津の立ち上がりを攻め、相手守備の乱れに乗り、二死二塁のチャンスを作ると、4番・川原のツーランで早々と先制。その後も2回表に2点、3回表に3点を追加し、着々と加点。序盤に大量リードを奪い、4回表には3番・芝の中越ソロ、5回表にも3番・芝のタイムリーで1点ずつを追加。毎回得点で中京を突き放し、5回コールド勝ちで決勝進出を決めた。

一方、中京は3回まで中京学院・片岡にノーヒットに抑えられ、4回裏に3番・小池のタイムリーで1点を返すのが精一杯だった。

〈準決勝〉

神戸学院大	03200
立命館大	1137x
	12 5

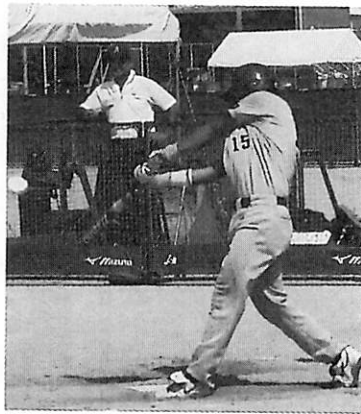
※大会規定により5回得点差コールド
(神) ●片岡・川島一赤木
(立) ○小川一藤川
▽困林(中)、乗本、藤川

第46回全日本大学男子選手権大会

1	環学	太習	平院	洋院	大(岡)	山(京)	18	1
2	学日	本本	体経	育州	大(東)	京(京)	3	0
3	日日	京京	体経	学産	大(福)	野(野)	4	5
4	信京	都都	院業	院業	大(岐)	阜(阜)	1	7
5	早京	稲稲	田田	田田	大(東)	京(京)	12	2
6	愛京	稲稲	田田	田田	大(愛)	媛(媛)	13	9
7	愛京	稲稲	田田	田田	大(愛)	媛(媛)	5	2
8	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	4	9
9	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	2	0
10	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	4	8
11	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	9	1
12	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	3	7
13	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	4	0
14	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	5	7
15	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	7	0
16	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	0	4
17	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	9	4
18	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	2	8
19	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	5	5
20	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	2	14
21	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	15	8
22	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	24	5
23	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	9	1
24	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	10	9
25	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	10	0
26	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	8	10
27	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	8	3
28	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	1	6
29	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	3	6
30	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	1	3
31	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	3	6
32	高京	稲稲	田田	田田	大(群)	馬(馬)	16	6

越智②、伊藤(立) 西角(神)浦(立) 細川(立) P竹中1堀江2鴨居 3久保田

〔記〕 関 西勢同士の対戦となったこの試合、後攻の立命館は初回到1番・林(中)の先頭打者本塁打でいきなり1点を先制。幸先の良いスタートを切ったかと思われた。しかし、その直後の2回表、3回表に立て続けに失点し、5点を奪われ、一時は逆にリードを広げられる展開となったが、2回裏に1点を返し、迎えた3回裏、二死一・二塁から5番・越智の中越スリーランで同点に追いつき、再び試合の流れを引き寄せた。勢いに乗る立命館は4回裏、一死か



立命館打線が爆発!

ら8番・乗本の左越ソロ本塁打で勝ち越しに成功すると、ここから2番・伊藤(剛)、4番・藤川、5番・越智の3本の本塁打を含む8連打を浴びせる怒濤の攻撃。この一回一挙7点を奪い、終わってみれば14安打で計12点を挙げる猛攻で5回コールド勝ちを収め、9年ぶりの決勝へ駒を進めた。

〈決勝〉

一方、神戸学院は1点を先制された直後の2回表に6番・河添、8番・河原のタイムリーで3点を挙げ、逆転。3回表にも4番・西角の走者一掃の三塁打で2点を奪い、一時はリードを広げる展開に持ち込んだが、このリードを投手陣が守り切ることができず、初の決勝進出はならなかった。

立命館大

0 0 0 0 1 0 0 1
0 0 4 0 1 2 x 7

中京学院大

(立) ● 小川・古賀―藤川
(学) ○ 片岡―三浦

▽ 伊藤(剛) 山下、芝(学)

〔審〕 P久保1末松2河津3河村

〔記〕 岩田

両チーム無得点のまま迎えた3回表、立命館は安打と内野ゴロで二死二塁のチャンスを作ると、ここで2番・伊藤(剛)が左前安打を打ち、二塁走者が一気に本塁を狙い、「先制か……」と思われた。しかし、中京学院の左翼手・山下からの「レーザービーム」で本塁寸前タッチアウト。立命館に傾きかけた試合の流れを変える「ビッグプレイ」となった。



決勝戦の「ヒーロー」となった中京学院・山下

中京学院はその裏、2本の安打と四球で一死満塁と攻め立て、好返球でピッチを防いだ5番・山下がワンボールからの2球目を豪快に振り抜き、値千金の満塁本塁打。この一回一挙4点を先制すると、1点を返された直後の5回裏にも、一死二塁からこの試合の「ヒーロー」5番・山下のタイムリーで1点を追加。6回裏には3番・芝のツーランでダメ押し2点を追加し、試合を決めた。

守っては、このリードをエース・片岡が粘り強いピッチングで守り抜き、完投勝利。創部10年目という節目の年で悲願の初優勝を成し遂げた。

一方、立命館は5回表に8番・乗本の本塁打で1点を返し、最終回も二死から連打で一・二塁のチャンスを作り、粘りを見せたが、反撃もここまで。12年ぶりの優勝はならなかった。